

札幌学院大学

商学部 経済学部 人文学部 法学部 社会情報学部 商学部第二部

商学科 経済学科 人間科学科 法務学科 社会情報学科 商学科

Sapporo Gakuin University

学園広報

1992. 7. 10 No.52

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室
〒069 北海道江別市文京台11番地
電話 (011) 386-8111

はばたけ青春 6学部7学科 1,307名迎える



●過去最高の参加規模
平成四年度新入生合宿オリエンテーションは、今年通算十三回目を迎え、新入生全山溪ホテル、人文学部は登別ホテルロイヤルヤコウ、法学部は定山溪第一ホテル、社会情報学部は定山溪観光ホテルをそれぞれ会場にして実施された。

初日は各学部とも、学内外の講師の方々による講演会等が企画され、各学部で新入生が熱心に耳を傾けた。その後

いとし、各学部の教育目標に照らして行われるこのオリエンテーションは全学的な行事として位置づけられ、今年通算十三回目を迎え、新入生全山溪ホテル、人文学部は登別ホテルロイヤルヤコウ、法学部は定山溪第一ホテル、社会情報学部は定山溪観光ホテルをそれぞれ会場にして実施された。

初日は各学部とも、学内外の講師の方々による講演会等が企画され、各学部で新入生が熱心に耳を傾けた。その後

仲間づくり・目標を求めて

新入生合宿オリエンテーション成功裡に

本年度十三回目を迎えた新学期恒例の新入生合宿オリエンテーションは、このたびはじめて合宿形態で実施することになった社会情報学部の新入生を合わせて四月八日、九日の二日間に行われ、総勢一、三〇七名のフレッシュな一年生が参加して行われ、成功裡に終了した。

本年で十三回目を迎えた新学期恒例の新入生合宿オリエンテーションは、このたびはじめて合宿形態で実施することになった社会情報学部の新入生を合わせて四月八日、九日の二日間に行われ、総勢一、三〇七名のフレッシュな一年生が参加して行われ、成功裡に終了した。

平成四年度入学式

熱い期待を胸に

平成四年四月四日午後二時より、北海道厚生年金会館において、ご来賓ご父母の出席をいただき、また、今年度は教員が壇上に参列して、平成四年度の入学式が盛大に挙行されました。

本年度の入学生は、商学部 第一部商学科 二六三名、経済学部 経済学科 三七三名、人文学部 人間科学科 一五五名、人文学部 英語英米文学科 七九名、法学部 法律学科 二二三名、社会情報学部 社会情報学科 二五名、商学部 第二部商学科 二六名、総計一、三〇七名でありました。

式は、見澤学長の式辞で始まり、小林理事長が祝辞を述べられ、続いて、在学生を代表する



平成四年四月四日午後二時より、北海道厚生年金会館において、ご来賓ご父母の出席をいただき、また、今年度は教員が壇上に参列して、平成四年度の入学式が盛大に挙行されました。

本年度の入学生は、商学部 第一部商学科 二六三名、経済学部 経済学科 三七三名、人文学部 人間科学科 一五五名、人文学部 英語英米文学科 七九名、法学部 法律学科 二二三名、社会情報学部 社会情報学科 二五名、商学部 第二部商学科 二六名、総計一、三〇七名でありました。

式は、見澤学長の式辞で始まり、小林理事長が祝辞を述べられ、続いて、在学生を代表する

十二年の歴史を経て

本学の「合宿オリ」の歴史は十二年前に遡り、昭和五十一年に商学部第一部が初の試みとして道内他大学に先駆けて実施された。

その後、全学部の統一実施となり、二泊二日の「宿泊研修」という形態を崩さず、今日に至っているが、これまで学部毎に様々な企画が練られ、内容的な充実が図られて

来る。また「合宿オリ」を支えるスタッフの経験の積み重ねからも多くの成果をあげてきている。特に毎年、先輩学生と補助学生の運営面での協力には特筆するものがあり、新入生の良き相談者として重要な役割を果たしている。

「合宿オリ」が新入生の仲間づくりと不安の軽減に大きく貢献し、将来にわたる友人の獲得と、その後の学生生活

新入生の感想

「中学や高校の宿泊研修の感覚で参加しましたが、実際には先輩学生の方々が計画した企画等と味違ったものを感じることができました。友人もでき、本当に充実した二日間でした。合宿オリを企画してくれた方々に感謝したいと思います。これからの大学生活を有意義なものにできるようにがんばります。」

(商学科生)

海外レポート

パリの六月

今月は最高にきらめく季節、六月です。フランスの六月は学生たちにとって試験や論文提出に忙しい時期ですが、その後は夏のヴァカンスが待ちかまえています。昨年の八月末から一年間の留研を許されて、パリで研究(テーマ「人間諸科学の認識論研究」)を深める機会を与えられたことが、緑は異なりましたが、それもまた数ヶ月にわたるものです。通常は本高等研究所やソルボンヌでのセミナーなどに出席して学界の最新状況を配っています。帰国後学生たちに選流させることができるのは、私の大きな喜びです。(一九九二年六月)

フランスにおける私の師ドント氏(ヘーゲル

海外レポート

パリの六月

今月は最高にきらめく季節、六月です。フランスの六月は学生たちにとって試験や論文提出に忙しい時期ですが、その後は夏のヴァカンスが待ちかまえています。昨年の八月末から一年間の留研を許されて、パリで研究(テーマ「人間諸科学の認識論研究」)を深める機会を与えられたことが、緑は異なりましたが、それもまた数ヶ月にわたるものです。通常は本高等研究所やソルボンヌでのセミナーなどに出席して学界の最新状況を配っています。帰国後学生たちに選流させることができるのは、私の大きな喜びです。(一九九二年六月)

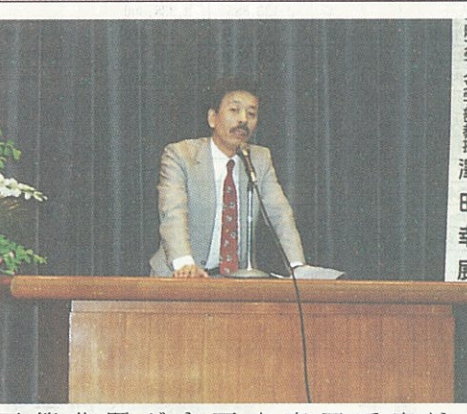
フランスにおける私の師ドント氏(ヘーゲル

講演と音楽の夕べ大盛況

北見市民講座

「ストレスと健康」とを披露、聴衆は美しい音色に聴き入っていた。演奏が終わり、拍手が鳴り止まず、拍手に答えてアンコール曲を演奏、前より大きい拍手に、二曲目を演奏し終えても拍手は鳴り止まず、たくさん聴衆が拍手をとり、見澤後明学長から本学の沿革、市民講座の由来、そして日頃のご音楽を楽しんだ。

支援に対するお礼の挨拶がなされた。音楽は、「ベートーベンの室内楽」と銘打って、札幌交響楽団の土田英順氏(チェロ)、東京在住で活躍中の三木香代氏(ピアノ)の両氏をお迎えして演奏された。曲目は、「ユダス マカベウスの主題による 十二の変奏曲」、「チェロ ソナタ 第一番 八長調 作品五の二」それぞれを二人とも思のあった演奏



「ストレスと健康」 北見市民講座 幸辰



パンテオンの近くのドント夫妻宅で家族と共に

法学部公開講座 — 超豪華な講師陣がズラリ 「剣(つるぎ)・秤(はかり)・人」

法政特殊講義(剣・秤・人)

破邪顕正(刑事法の世界)		
4/23	「検察官の役割と使命」	札幌地方検察庁検事正 中津川 彰
4/30	「犯罪を通して現代の世相」	北海道弁護士連合会理事長 岸田 昌洋
5/7	「疑わしきは被告人の利益に」	札幌地方裁判所長 神田 忠治
各人に彼のものを(民事法の世界)		
5/14	「紛争解決と衡平」	弁護士 中村 仁
5/21	「民事裁判と市民生活—裁判所の役割は?」	札幌地方裁判所裁判官 大出 晃行
5/28	「アマチュアの台頭と苦しみ」	札幌高等裁判所裁判官 畑瀬 信行
家庭に平和を、少年に希望を(家事・少年の世界)		
6/4	「少年と弁護士の悩み」	弁護士 江本 秀春
6/11	「破綻あれこれ、非行さまざま」	札幌家裁首席裁判官 長峯 憲二
6/18	「常盤御前判決—かにかくに母性は哀し」	札幌家庭裁判所裁判官 和田 丈夫
6/25	「愛する神は細部に宿り給う」	札幌家庭裁判所長 青野 平
法とともに歩んで		
7/2	特別講話	札幌高等検察庁検事長 佐藤 道夫
7/9	特別講話	札幌高等裁判所長官 梅田 晴亮

昨年度好評を博した法学部公開講座「法は生きている」事件を通じて見た人間・社会の真相」に続き今年度公開講座は「剣・秤・人」。剣は刑事、秤は民事、人は家事・少年で四月三日から七月九日まで毎週木曜日一三時一〇分—一四時四〇分まで二回行った。日程、講師、テーマ等は別表にゆずるが、札幌地検検事正、札幌地裁所長、札幌高検検事長、札幌高裁長官の協力を受けての企画は、全国でも初めてであり、会場では講師の体験に裏打ちされた説得力のある話術に四〇〇人を越える超満員の学生、市民らは魅了されていた。



法学部公開講座「剣・秤・人」

新任教職員紹介

(平成四年四月一日付就任)

是永 純弘 教授



経済統計学担当
昭和三十三年北海道大学大学院経済学専攻科修了
前北海道大学経済学部教授
六十四歳

北島 象司 教授



教育心理学担当
昭和三十三年北海道大学教育学部卒業
前北海道大学教育学部教授
六十四歳

小西 雅彦 教授



金融論担当
昭和二十八年静岡大学文学部卒業
元静岡銀行調査部勤務
六十二歳

榎守 哲士 助教授



国際経営論担当
平成元年立教大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
前立教大学経済学部助手
四十三歳

三好 元 助教授



中小企業論担当
昭和六十二年西南学院大学大学院経営学研究科博士後期課程修了
前東亜大学経営学部専任講師
三十五歳

小内 純子 講師



社会情報調査論担当
平成元年北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程退学
三十五歳

室本 省作 講師



商業科教育法
昭和三十一年北海道大学経済学部卒業
前北海道札幌東商業高等学校校長
六十歳

中村 圭二 職員



教務部教務課勤務
平成四年札幌学院大学商学部卒業
二十三歳

中川 道雄



学生部学生課勤務
平成四年札幌学院大学人文学部卒業
二十二歳

私大助成の署名にご協力ありがとうございます

この度私共、札幌学院大学公費助成推進協議会が、全学を挙げて取り組んでいる私大助成の署名活動に、ご父母の皆様にはご多忙中にも拘わらずご協力を頂き誠にありがとうございますとさせていただきます。さて、現在までの署名は、文部省九三年度概算要求編成に向けて、七月八日に私大助成要求全国私大中央要請行動に持参します。最終集約は七月二〇日です。なお、昨年度は署名数八、五九七名、募金額一、〇四五、八三二円でしたことを報告します。

財政基盤の健全化と安定化に向けて

学校法人札幌学院大学の「平成3年度決算」ならびに「平成4年度予算」が理事会で承認されました。その概要は次のとおりです。

- 1、臨時定員増の申請
人文学部の期間を付した収容定員増の申請を行い、人間科学科50名、英語英米文学科20名について認可されました。
- 2、教育研究施設設備の整備
(1) コンピュータ・ワープロ・視聴覚機器等の購入
(2) 図書館電動密集書架の導入
(3) 学生駐車場自動ゲート設置
(4) 講堂屋根補修及び内装工事
(5) 3号館事務室改修及び外壁塗装工事
(6) テニスコートの補修
(7) 図書購入(寄贈図書含む)3,771冊
- 3、収支決算の概要
消費収支決算の概要は、第1表のとおりです。
本学への入学志願者は、開学以来最高の15,628名、前年比6%の伸びとなりました。これによる手数料収入等の消費収入の増加と、諸経費等の節約による消費支出の減少により、決算において約7千万円の消費収入超過額(黒字)を達成することができました。
- 4、教育機器・教材等の整備
(1) 教材データベースの活用
(2) ハイテク展示室の整備
- 5、学部・学科の自主的教育活動の促進
(1) ゼミ補助及びプロジェクト大会開催準備補助
(2) 法学部施設見学会の実施
- 6、学生生活の活性化
(1) 課外活動における学生指導への援助
(2) 学生諸団体に対する学園後援会・文泉会(同窓会)からの援助
- 7、入試・就職対策の充実
(1) 入学志願者の確保
(2) 大学と企業との就職懇談会の開催
- 8、学園後援会・文泉会及び地域との連携強化と広報活動の活性化
(1) 学術講演会(札幌)・市民講座(北見・帯広)の開催
(2) 学園広報・学院評論の充実
- 9、将来計画策定のための調査
(1) 学術講演会(札幌)・市民講座(北見・帯広)の開催
(2) 学園広報・学院評論の充実
- 10、国際交流事業の推進

平成5年度 入試相談会始まる

平成5年度入学相談会は六月一日から始まり、全国各地で実施されています。相談会には、高校教諭並びに受験生が昨年を上回る人数となっています。なお、平成4年度の入試結果の特徴は次のとおりです。

平成4年度入試において、本学の志願者数は初めて一五、〇〇〇名を突破し、昨年に続き道内最大の志願者数を記録した。道内他大学で減少しているところもある中で、六%といえず全学で志願者数を伸ばしたことは、本学の安定した人気ぶりが伺える。

浪人生の伸びが目立つ

一方、志願・合格の状況を中身で見ると、まず浪人別で、一般入試志願者で現役五六%、浪人四四%と、前年度に比べ浪人比率が六ポイント

過去3年間の志願者数推移

90年度	9,322人
91年度	14,745人
92年度	15,628人

過去3年間の「合格者数」道内外比率推移

年度	道内	道外
90年度	71.1%	28.9%
91年度	64.6%	35.4%
92年度	66.5%	33.5%

過去3年間の「合格者数」現浪比率推移(一般入試のみ)

年度	現役	浪人
90年度	57.5%	42.3%
91年度	54.3%	45.7%
92年度	49.3%	50.7%

消費収支計算書

第1表 (単位千円)

	平成3年度決算	平成4年度予算
学生納付金	3,245,168	3,597,200
手数料	475,558	455,000
補助金	53,778	46,000
補助金	388,282	324,000
(内経常費補助金)	(369,654)	(312,000)
資産運用収入	184,675	165,000
資産売却差額	19,437	20,000
事業収入	8,927	9,500
雑収入	30,658	23,800
繰越収入合計	4,406,483	4,640,500
基本金組入額合計	△999,894	△988,240
消費収入の部合計(7)	3,406,589	3,652,260
人件費	2,135,885	2,338,300
(内退職給付引当金繰入額)	(113,434)	(112,200)
教育研究経費	880,852	948,100
(内減価償却額)	(314,921)	(319,300)
管理経費	194,219	184,800
(内減価償却額)	(4,061)	(4,100)
借入金等利息	113,275	101,870
資産処分差額	7,890	11,000
徴収不能引当金繰入額	156	1,000
予備費	-	64,900
消費支出の部合計(イ)	3,332,277	3,649,970
消費収入超過額(黒字)又は消費支出超過額(赤字)(ア-イ)	74,312	2,290
翌年度繰越消費収入超過額	354,679	356,969

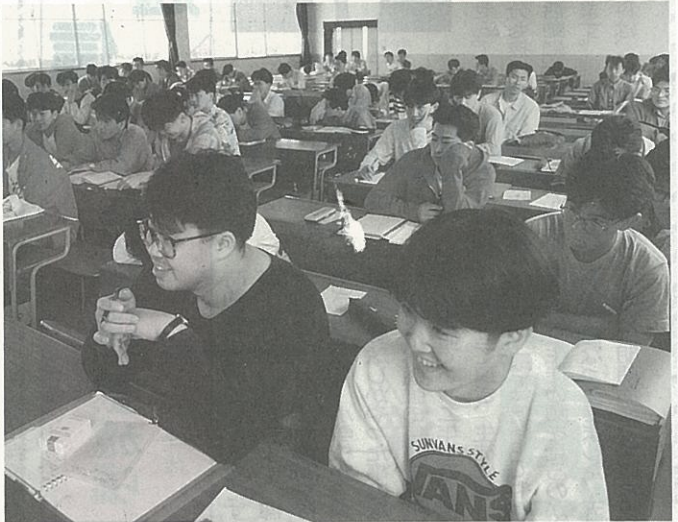
貸借対照表

第2表 (単位千円)

	本年度末	前年度末	増減
固定資産	11,188,685	10,574,568	614,117
有形固定資産	7,747,770	7,879,541	△131,771
その他の固定資産	3,440,915	2,695,027	745,888
流動資産	3,123,857	2,787,258	336,599
資産の部合計	14,312,542	13,361,826	950,716
負債の部			
固定負債	2,465,277	2,590,355	△125,078
流動負債	1,043,479	1,041,891	1,588
負債の部合計	3,508,756	3,632,246	△123,490
基本金及び消費収支差額の部			
基本金	10,449,107	9,449,213	999,894
消費収支差額	354,679	280,367	74,312
小計	10,803,786	9,729,580	1,074,206
負債の部・基本金及び消費収支差額の部合計	14,312,542	13,361,826	950,716

- 1、新学部の基盤整備・充実
経済学部充実図書新学部創設図書購入
- 2、社会情報学部研究設備(EWS)の設置
- 3、研究条件の改善と研究促進
大学選書の出版(第4号)、学会論集の発行
- 4、学園後援会・文泉会及び地域との連携強化と広報活動の活性化
(1) 学術講演会(札幌)・市民講座(北見・帯広)の開催
(2) 学園広報・学院評論の充実
- 5、学部・学科の自主的教育活動の促進
(1) ゼミ補助及びプロジェクト大会開催準備補助
(2) 法学部施設見学会の実施
- 6、学生生活の活性化
(1) 課外活動における学生指導への援助
(2) 学生諸団体に対する学園後援会・文泉会(同窓会)からの援助
- 7、入試・就職対策の充実
(1) 入学志願者の確保
(2) 大学と企業との就職懇談会の開催
- 8、学園後援会・文泉会及び地域との連携強化と広報活動の活性化
(1) 学術講演会(札幌)・市民講座(北見・帯広)の開催
(2) 学園広報・学院評論の充実
- 9、将来計画策定のための調査
- 10、国際交流事業の推進

経済学科を経済学部へ 発展的改組



改組の理由

一口で言えば、現代の経済を四年間で理解するには、商学部の経済学科だけでは学習の容量が十分に確保できない。また、経済学は活き活きの学問である。周知のように、現代の経済と政治は激動のさなかにある。多国籍大企業を中心と

して国際化と情報化は急ピッチに進んでいる。そして、この世界的潮流は大きなウネリを伴って日本経済と北海道経済を直撃している。いま、経済学は活き活きの学問である。周知のように、現代の経済と政治は激動のさなかにある。多国籍大企業を中心と

「激動の時代」の経済現象

を正しく理解するためには、既知の経済理論を修得するとともに、未知の経済問題にチャレンジする情熱と情報機器を駆使して現状分析を行う能力の修得が求められる。また、グローバルな視点をもつた専門的経済人が社会的に強く求められている。カリキュラムの充実と二コースの新設

経済学部に入学する学生は、一年おおよそ二次に経済学原論A・B、日本・西洋経済史、経済学概論、経済統計学等を学ぶ。これらは共通基礎科目(A群)を構成する。三年次では、その土台の上に専門基礎科目(B群)を積み上げて履修する。B群で人間の経済活動を多面的かつ複線的に把握するための専門基礎知識を学ぶ。B群の科目を履修しつつ、学生は、激動する現代経済の現状分析科目(C群)の履修へと進んでいく。C群は国際コース(CI群)と地域コース(CII群)に分かれ、社会的に卒業論文またはゼミ論文の作成と発表を行う。このよう

に、講義とゼミナールは相互補完・一体的カリキュラム体系を構成している。ゼミナールの一貫教育

ゼミの指導は、講義の半期制および教員のサバティカル制の定着が検討されている。第二に、国際コースと地域コースの新設に伴って必要と予想される文献及び資料を図書充実等で揃えることを計画している。第三に、教員の研究・教育に貢献する機器の導入を計画している。統計処理という科目を中心として、数値的な解析にコンピュータの利用が検討されている。

意欲に充ちた学生迎える

本学は今年度一五、六〇〇名の志願者を数えたが、経済学部は、昨年に引き続き実質競争率一〇倍(一・八倍)に倍増した。七倍(推薦入試)を超える関門を突破した実質競争率に充ちた新しい仲間を迎えることができた。

稲村ゼミナール

三五名と私がプロゼミナール二組の構成員である。三五名という人数は、担当するものにとって、ゼミにするには少し多すぎるといえる。新人の学生諸君にとっては、高校時代のクラス弱の人数であるが、ゼミナールという性格に『?』。いずれの側にも、とまどいと不安をもちつつのスタートであったが、『ゼミナール日本経済入門』を使った現在進行形。この間、五名×七班を編成し、しみを共感しつつ、一年間を『ゼミナール日本経済入門』の産業構造と変化という視点から、日本経済の現状と

JRの線路を挟んで大学と反対側の大馬路地帯にある別市民館を会場にして、地域の住民の学習の場として活用している。始められた本学主催の「土曜公開講座」も、お陰をもちまして、早くも第十三回という、言わば二回目を迎えました。

大変恵まれたことに本学の周辺地域には、大学人顔負けに知的関心が旺盛で、目や耳の肥えた市民が多数居住していらっしゃいます。その意味で当講座は、「地域の一角に大学を持つ利点を享受したい」と願う、熱心な受講生市民各位の愛顧に支えられて

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

土曜公開講座 グローバルバリズム 21世紀の世界へ

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

講座内容(テーマ)	
1	ベルリンの壁の崩壊から見た20世紀
2	経済の国際化と摩擦
3	近代の出発における民族と国家：再考
4	ハイテク社会と世界—情報化社会の到来—(学部外講師社会情報学部長 田中一)
5	カネは世界を走る
6	日本社会のアジア観—公害の現場を見る—
7	日本近代化とアジア
8	日本人の食料消費構造：その変化と特徴
9	企業社会から市民社会へ
10	地域からの発想
11	生活が世界をかえる



「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

札幌学院大学土曜公開講座

東北・北海道ブロック 経済ゼミナール近づく

「激動の時代」の経済現象

「激動の時代」の経済現象

鏡味ゼミナール

「激動の時代」の経済現象

プロゼミナール紹介

「激動の時代」の経済現象

札幌学院大学土曜公開講座

学部の特性を 反映した就職

経済学部(部)科の就職状況は、好景気に支えられながら順調に推移してきた。経済学部(部)科は、地元北海道の優良企業を中心に本州の上場会社にも多数が就職するなど、全国を視野にいれつつ、同時に国際化の時代にふさわしい進路選択が追究されている。

主たる就職先は、その特性を反映して百貨店、総合スーパーをはじめとする流通業、銀行、証券、信販の金融業界等である。また、教員、並びに北海道職員・市町村職員等に北海道職員・市町村職員等の公務員、農業協同組合等に就職する者が比較的多いのも特徴である。

これらの分野へ進出する学生は、専門教育やゼミナールでの学習の成果を活かすべく積極的に準備をすすめて、有力企業への就職に果敢にアタックしている。今年もパブル経済の崩壊と景気の停滞にもかかわらず、学生の適性と、時代と地域の要請に応え、多方面に有意な人材を送り出して

札幌学院大学土曜公開講座

平成4年度 就職戦線

活発化する就職活動

平成4年度の就職戦線は、新就職協定(七月一日求人票公示等)のもと、業界セミナーの開催など早くも活発化に動き出している。バブル経済の崩壊・景気の停滞など、学生の就職活動への危機意識とあいまって企業への資料請求は早期化・多様化し、年明け早々から積極的に開始された。企業側は「新就職協定」の遵守から、ややスローペースで推移している。今年は大企業での採用減が表明された。中堅・中小企業の採用意欲は景気の先行き不透明感にもかかわらず、これまで確保出来なかった若手「新卒」の採用に積極的である。

六月五日(金)、東京で本学が企業とのコミュニケーションを目的に同窓会と協力のもと毎年開催する第6回「企業と大学の就職懇話会」をアスカホテル市ヶ谷で開いた。懇話会には企業一〇二社、一四二名が参加、経済学部の中野教授の講演「明治維新のリーダー達は世界をどう見たか」に引き続き、見解を交換しながら「企業へのこれからの採用のお礼とお願いと大学の近況」が述べられ、企業一社から一言をいただいた。その後懇話会に移り、学長を初め本学関係者のもとに企業の挨拶が続き、本学卒業生の活躍が評価され、継続して採用希望の企業が増加するなど、本学への期待が一層強く感じられた。

今年度は、企業の旺盛な採用意欲のなかで、選考方法が「人材本位」に変化し、学生にとってはやや厳しいものもあって活動すること、良い結果が期待できる。本学として、豊富な資料が揃っている「就職情報センター」を拠点に、企業との連携をより一層強化し、学生の希望に添った就職分野の拡大を図ることが、本学学生の将来にとって重要である。



新就職協定(七月一日求人票公示等)のもと、業界セミナーの開催など早くも活発化に動き出している。バブル経済の崩壊・景気の停滞など、学生の就職活動への危機意識とあいまって企業への資料請求は早期化・多様化し、年明け早々から積極的に開始された。企業側は「新就職協定」の遵守から、ややスローペースで推移している。今年は大企業での採用減が表明された。中堅・中小企業の採用意欲は景気の先行き不透明感にもかかわらず、これまで確保出来なかった若手「新卒」の採用に積極的である。

O.B通信



だいなが 清孝さん
平成四年三月
法学部法律学科卒業
学生時代 硬式野球部
所属 四年間所属
現在 天塩高校
教員

私の母校である天塩高校に赴任して早二ヶ月が経ちました。始めは母校に遊びに来ていて、仕事をしていた。現在受け持っている教科は、日本史と地理(週十五時間)です。

母校の教壇から
母校生活でも二年生の副担任をさせて頂き、生徒に寄り添って、最近になってやっとならぬと、毎日生徒の顔を見るのが楽しみになってきました。天塩高校は明朗活発で素直な良い生徒ばかりおり、生徒とのコミュニケーションを重視して頑張っています。今、私がこの学校の教壇に立つのも、四年間の部活動の経験と先生方や、職員の方々のアドバイスのお陰だと感謝しています。これから札幌から教員になる学生が多数誕生することを願っています。

春季活躍のクラブ



全道札幌・小樽間駅伝大会のスタート(5/17・小樽)

陸上競技部
二年連続全道制覇達成
昨年、男子総合初の全道制覇を果たし、また二年連続全日本大学駅伝に出場するなど勢いにのり陸上競技部は、この春もその実力を確かなものにしていく。

長距離の分野では五月に伝統の全道札幌・小樽間駅伝に出場し、一般の部で過去最高の四位に食いこんでいる。続く札幌での開催となった北日本インカレでもフィールド競技において、個人で二人の優勝者を出している。

そして注目なのが春季インカレは六月下旬に行われ、予選を突破している。

秋には三年連続の出場をかねて全道駅伝北海道予選もあり、さらなる活躍と今後の朗報に期待したい。

春季リーグ準備

例年全国大会に出場を果たしている羽球部は、今年度も出足から快調なペースを維持し、四月下旬の春季一部リーグにおいて四連戦を戦い、惜しくも札幌大学戦で敗れたものの、残り三試合を確実にものにしていれば、リーグ成績三勝一杯で準備勝ちを挙げた。

これにより、十月に行われる全国インカレ出場の切符を四年連続手にし、日々の練習にも一段と熱が入っている。

また、六月下旬の北海道インカレ予選では、男子ダブルスを佐々木・芳村ペアが優勝を果たし、注目を浴びた。

こうして春から団体・個人ともに絶好調であるが、今後は夏から秋にかけて、東日本学生選手権、次いで全国インカレ出場を控えており、より高い目標を掲げての善戦に期待したい。

案内

- 帯広市民講座—講演と音楽の夕べ—**
- 日時 平成4年9月4日(金) 午後6時開場・午後6時30分開演
 - 会場 帯広市民文化ホール(帯広市西5条11丁目48番地)
 - 講演 鶴丸 俊明(札幌学院大学文学部助教授)「チンギス・ハーン—その陵墓探索から—」
 - 音楽 ベートーベンの室内楽 藤井 一興(ピアノ) 土田 英順(チェロ)
 - ユダス マカベウスの主題による12の交奏曲・チェロ ソナタ第1番 へ長調 作品5の1
 - 入場無料(入場整理券は、市教育委員会社会教育課、商工会議所、市民文化ホール受付、市内書店、楽器店で8月上旬より取り扱う予定)
- 第16回学術講演会—講演と音楽の夕べ—**
- 日時 平成4年10月2日(金) 午後6時開場・午後6時30分開演
 - 会場 共済ホール(札幌市中央区北4条西1丁目)
 - 講演 未定
 - 音楽 ベートーベンの室内楽 藤井 一興(ピアノ) 土田 英順(チェロ)
 - ユダス マカベウスの主題による12の交奏曲・チェロ ソナタ第1番 へ長調 作品5の1
 - 入場無料(入場整理券は、市内書店、プレイガイド等で9月上旬より取り扱う予定)

第三次ゴルバンゴル調査はじまる

人文学部助教授 鶴丸 俊明



民族衣裳で盛装

チンギス・ハーンの陵墓を探索するゴルバンゴル(三つの川)計画の最終年度の調査が、今年も四月末から始まり、四月に当地に入りました。四月に当地に入るのは物理探査隊で、昨年度のヘリコプターを用いたレーダー探査で地中に異常値を得た部分の詳細な探査を継続中です。私の所属する考古学隊は五月二日にモンゴル入りし、現在は第二次キャンプに入っています。最終年度の調査地はハーンが拠点を置いたとされる地域で、その場所の確定と並行して、あちこちに

平成5年度 入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
法学部法律学科	1月8日(金)~1月22日(金)	2月8日(月)	本学 東京 大阪 青森	2月24日(木)	3月5日(金)
商学部第二部商学科		2月9日(火)			
経済学部経済学科		2月10日(水)			
人文学部英語英米文学科		2月11日(木)			
商学部第一部商学科	3月1日(月)~3月8日(月)	3月11日(木)	本学	3月13日(土)	3月22日(月)
人文学部人間科学科		3月11日(木)			
社会情報学部社会情報学科	11月2日(月)~11月13日(金)	11月27日(金)	本学 東京 青森	12月12日(土)	12月22日(火)
商学部第二部商学科		11月28日(土)			
商学部第一部商学科	11月2日(月)~11月13日(金)	11月28日(土)	本学 東京 青森	12月12日(土)	12月22日(火)
人文学部英語英米文学科		11月28日(土)			
社会情報学部社会情報学科		11月28日(土)			